

議会だより

第42号

2017・4・27

3月定例会

一般質問	2～6頁
委員会審議	7～17頁
表彰・議会のうごき	18頁

町政のことが聞きたい



谷川 真二 議員

質疑 谷川

今回は、平成28年第4回定例会までに私がした一般質問において、質問に対する答弁後の進捗状況とその後どのような対応がなされたのか質問させていただく。

まず、子どもはぐくみ医療費助成と出生祝い金支援事業についてであるが、医療費助成の制度拡充と出産祝い金の増額の検討という質問に対して、町長から少子化の進行が極めて厳しい状況の中で制度の充実が必要であるが、一方



答弁 兼西町長

子どもはぐくみ医療費については、次世代を担う子どもを健やかに生み育

では安定した財源の確保もまた必要となることから、十分な検討を行い、平成28年度からどのようにするか結論を出したいとの答弁をいただいた。子どもはぐくみ医療費助成については、本議会に条例の一部改正として提案をされていたが、そのあたりも含めて、その後どのような対応がなされているのか。

る環境づくりの一環として、子どもたちの健康維持増進を図るために、平成21年度に小学校修了時まで、また平成25年度には中学校修了時まで対象者を拡大し制度の充実を図ってきた。

このような状況の中、本町としても平成29年度より高校修了時まで対象者を拡げ、子育て世帯の健やかな環境作りと、子どもたちの健康維持増進に努めていきたいと考え、本議会に議案を上程しているので、ご審議を願いたい。

また、子育て世帯の方からは、更なる医療費の拡充を求める意見も多く寄せられているところである。県内市町村の状況を見た時、平成28年度現在、8市町村が高校修了時まで対象を拡大している。近隣市町においても、同様に対象者拡大の検討がなされているようでもある。

出生祝い金支援事業については、つるぎ町ふるさと定住促進条例に基づき、つるぎ町の人口確保と増加を図り、本町の活性化と町民福祉の向上に寄与する目的で事業を実施している。支給額については、平成28年度に見直しを行った。第1子を1万円から3万円、第2子を3万円から5万円、そして第3子を5万円から10万円、第4子を10万円から20万円、第5子を20万円から30万円にそれぞれ増額し、第6子以降については50万円を支給することとしている。参考までにであるが、

本件では1件事例が出来たところである。本年度についても現在のところ34名の出生に対し188万円の支給を行い事業の推進をしているところである。

質疑 谷川

ウェブサイトにに関しては、運営の主旨とリニューアルについての質問に対して、町長よりウェブサイトリニューアルは、本年度の当初予算での上程を考えているとの答弁をいただき、実際28年度予算化をしていただいたのだが、確認をしたところホームページについては、まだ大きな更新がされていないようなので、リニューアルに向けての進捗状況を伺う。

答弁 兼西町長

つるぎ町のウェブサイトであるホームページは、平成17年の合併時に簡易なものを制作して対応して

いた。平成28年度に徳島県全市町村が参加する、自治体セキリティクラウド事業にあわせてホーム

ページを改修しており、平成29年4月から正式稼働となる。

質疑 谷川

保育料軽減事業の必要性についての質問に対して、少子化対策を推進するためにも子育て家庭への経済的支援は必要であり、多子世帯などへの保育料の軽減についても更に検討すると答弁であったが、その後どのような検討がなされたのか。

答弁 兼西町長

本町における保育料については、国が定める各階層基準より1割〜5割程度低くした保育料を設定している。

また、近隣の市町と比較しても、同程度の保育料の

設定であり大差は無いと認識している。多子家庭における保育料の軽減については、低所得世帯、ひとり親家庭、また障害者のいる世帯など国の基準に準じて軽減を行っている。

県及び町の軽減施策においては、平成27年度より阿波つ子はぐくみ保育料助成事業を受け、入所児童の約6割は何らかの軽減を受けている。さらに、平成29年度においては、国の施策として、町民税非課税世帯の第2子無償化、そしてひとり親世帯における軽減措置の更なる拡充案が検討されている。

本町としても今後とも国・県の施策の動向を見ながら、また町財政や近隣市町の状況を鑑み子育て世帯を支援していききたいと考えている。

質疑 谷川

老朽化している貞光保育所・幼稚園の施設整備についての質問に対して、保育所に関しては現状改善すべき所は改修を行いながら施設運営をして施設の安全性・利便性を最優先に考慮しながら、最適な移設場所の模索、検討を視野に入れた対応をするという答弁をいただき、幼稚園に関しては現状維持の方針を基本として更に原点に立ち返って、関係各位との話し合いを持ちながらより良い環境づくりに方向性を向けたいとの答弁であった。

この質問については、質問後、日も浅くその後の対応や進捗状況まで話が進んでいないということも考えられるが、現時点でお話しただけのことがあればお伺いしたい。

答弁 兼西町長

貞光保育所の施設整備については、昭和56年3月に建築され、また0歳児の保育を行うため平成22年3月に別棟を併設している。本棟については、築35年を経過している。

補助事業等に係る予算執行の適正化に関する法律施行令で定められた耐用年数47年に至るまで10年余りある。

また、耐震診断についても、平成25年度に実施し、数値結果については問題無しとの診断も受けている。

保育所周辺の急傾斜地については、県営事業にて貞光西山地区の急傾斜地崩壊対策事業が計画されており、近々初年度の工事が発注される見込みで、事業完了後は、急傾斜地ゆえの不安が解消され、安心して保育に預けられる施設になると考えられるが、

かねてよりご指摘いただいているように、経年による老朽化は見受けられる。本年度においてもトイレの段差解消や和式トイレの洋式への改修（1基）、保育室の壁紙クロスの張り替え（4室）、また、一部遊具（滑り台1基）の取り替え工事等を行ったところである。

前回の答弁の繰り返しになるが、当面は現状を維持しつつ改善すべきところは補修や改修を行い施設運営し、将来的には、この将来と申すのは、やはり私も公選人である。4年という任期の中で、果たしてどのようにすべきかは自分なりのプランも持つている。だが、その受け皿としての、当然、用地確保等もある。だからそのあたり、まず内部で状況等を把握しながら、やはり人様の土地を購入しなくては、当然、到底許されないもので、現段階で

語れるのはこのあたりまでと考えている。

最適な移設場所の模索・検討も視野に入れながら、今後も子ども達の保育に最善の環境を提供していきたいと考えている。

貞光幼稚園の施設整備については、私も現地調査を職員と同行しながら、門扉、給食配膳室、トイレ等について、設置又は改修すべきであると判断した。

そして、平成29年度では、門扉、給食配膳室、保育室ロツカー、下駄箱の改修工事費を予算計上している。ご承認を頂き次第、着工したいと考えている。

また、トイレ改修工事については、国県の補助制度を有効活用するため、平成30年度での実施を予定している。



小野 誠治
議員

質問 小野

合併して約12年経つが、つるぎ町民歌は制定されていない。旧貞光町、半田町は、町民歌と町民音頭がそれぞれ制定され、一字村では一字音頭が制定されていたようである。

私は半田地区なので、半田町民歌・町民音頭を子どもの頃、授業や運動会、陸上大会、それぞれで歌ったり耳にしたりしている。やはりこの歌というのは、町の文化財や特産品や情景などが歌詞に含まれることが多いので、私も子ども頃、この歌を覚えたことによつて町の素晴らしさや知らないこと等を知ったことを思い出す。

また、美馬郡合併協議会で町歌について、どのよ

うな協議が行われたのかインターネットで検索してみると新町において策定する、新町発足後公募も含めて調整すると書かれていた。

実際、私も少数ではあるが、町歌は制定しないのかと町民の方から聞かれたこともある。各年代、各地区によつて町歌を制定して欲しいという町民感情のばらつきも当然あると思う。

また年数が経つにつれ、合併協議会で方針が打ち出されているが、その必要性や効果等を再検証する場合も行政側としてあると思う。現時点での町長のご意見、ご見解をお聞かせいただきたい。

答弁 兼西町長

町歌の制定の意向についてであるが、合併協定書においてても町の木、花、鳥と併せて町歌の制定も新町において制定するとしてい

る。町の木、花、鳥はおおむね3年以内に制定すると申し合わせから、平成19年度に制定したところである。一方、旧町村により歌い継がれてきた町や村の歌については、町民それぞれの思い入れがあり、ある程度の時間が必要であろうと考えている。

ちなみに、平成の合併を経験した県内の市町村においては、未だ歌を制定した自治体はない。

合併から12年目を迎え、つるぎ町も一体感が醸成されつつあると感じている。町の歌については、様々な機会をとらえて町民の皆様のご意見をお聞きし、そして機運が高まっていると判断できるような状況になれば前向きに検討したいと考えている。現段階でいつの時期に制定するという答弁には至らないがご理解をいただければ幸いです。

質疑 小野

現在、つるぎ町において町有地資産は、何力所かあると思う。その中でも更地のままで活用されていない町有地もあると思う。その中で「せせらぎの風」南側の町有地の利活用について伺います。

「せせらぎの風」も供用開始1年を迎えようとしている。私が議員となった2年前には、施設建設着工前だったと思う。町長はじめ担当課の方におかれは、紆余曲折ありながら大変ご苦労なされたと拝察している。

また町民の皆さま、特に地元住民の方々にはご心配をおかけしながらご理解をいただき供用開始を迎え、立派な施設で人生の終末を迎えること、また見送るご家族の皆さま方からは、肯定のご意見をいただくことがほとんどであると思う。

今さらながらではあるが、町長、そして町民の皆様には、改めて敬意を称したいと思う。

そんな中、「せせらぎの風」南側に町有地がある。「せせらぎの風」供用開始前の全員協議会等での説明時において、私の記憶が正しければ、将来的には、この南側町有地にどのような分野の施設が建設されるかわからないが、いろんなご意見を加味しながら、計画を立てていきたいとの説明が、担当課よりあつたのを記憶している。

そこで町長にお伺いする。「せせらぎの風」南側町有地の利活用について、現状どのようなプランをお持ちなのか、そしてそれは直近なのか、それとも将来的な長期計画なのか、ご意見をお聞かせいただきたい。

答弁 兼西町長

町有地の利活用につい

てであるが、町有地の利活用計画については、地域福祉の拠点となる施設整備を計画している。

今回計画している施設の必要性を申し上げると、当然少子高齢化が全国より数十年も先駆けて進む本町では、生活支援、安心安全対策等について高度な対応が要求されている。人口減少により、地域住民がお互いに助け合つて生きてきた集落の美風や古くから伝えられてきた地域活動の維持が困難になりつつある。

平成26年12月に降った記録的な大雪では、高齢者の多い山間集落が被害を受け、この時の救援対策においては、行政組織の壁を越えた情報の交換と人員配置等、迅速な関係組織の総力戦が必要であることを改めて私自身痛感させられた。

中でも社会福祉協議会

の役割は非常に大きく、民間と行政とのパイプ役として今後、よりその重要性は増してくるものと考えている。

よつて、今後、地域住民が安心安全にこの町で暮らしていくためには、行政では手が届きにくい課題を民間団体が住民と一緒に解決する地域福祉の拠点となる充実した施設整備が必要と考えている。

平成29年度、当然当初予算では、事業費を計上させていたと考えている。

今年度、実施設計というところで、私も4月9日までが任期、それ以降のことは語るわけにはいけないが、もし4年間の町政担当者ととなれば、4月中に出れば入札、そして皆さま方のご承認をいただけるのなら平成30年度の供用開始を目指して事業を進めていきたいと考えている。



佐藤 千代美
議員

質疑 佐藤

つるぎ町は厳しい人口減少で、半田・貞光・一字の3町村が合併した平成17年の国勢調査によると、1万1722人だったが、10年後には8927人になり、現在さらには人口が減少している状態であると思う。

そういう中で、一番荒廃を受けているのが中山間地域であり、その中山間地域の状態をどういう風に維持していけばいいのか、そのことについて考えていただきたいと思っています。

それから中山間地域が多い中で、町全体でも空き家は増加している。家に囲まれていると思つていた町の人でも、ふと気がつくとき空家ばかりで人の声

「答弁 兼西町長」中山間地域の荒廃と空き家対策であるが、本町の中山間地域集落は、過疎高齢化の波を受け、集落形態の維持が困難な状態になってきている。

この地域は、農林業を主産業とし、地域住民の生活を維持してきたが、農業者の高齢化、農林産物価格の低迷、有害鳥獣被害による農地の荒廃化など、持続的な集落生活が困難な状況になっている。このような集落を取り巻くさまざまな問題点に対して、青年就農給付金事業を活用した新規就農者の育成による過疎高齢化対策、道の駅貞光ゆうゆう館産直市に

よる農林産物の直売や、地産地消の推進による地域農産物の流通量の拡大による農林業生産における経済的な対策。そして有害鳥獣侵入防止柵の半額町負担による優良農地の維持保全対策など農林業の持続的な生産活動に対する総合的な取り組みを行っている。

また、地域資源の保全など地域住民が担っており、地域活動に対しては、中山間地域等直接支払交付金を活用し、財源的な後押しもしている。

平成13年度から取り組みを開始したこの事業は、平成28年度340haの農地に対して、2900万円余りの金額を地域農業者に交付させていただいている。

今後とも、国、県、関係団体等と情報交換を密にしながら地域集落の維持保存に資する対策を積極

的に導入していく。

続いて、空き家対策についてであるが、本町では空き家となつている住まいを町の空き家バンクに登録し、住居を必要とされる方に斡旋している。

空き家の募集については、固定資産税の納税通知書と併せて送付し、空き家を調査し、所有者の方の了解をいただく中で空き家バンクに登録することとしており、参考までにであるが、現在3件(半田2件、貞光1件)の家屋に登録している。

しかしながら、利便性や災害時の対応を考えた時、集落として存続が難しいところや建物として大規模な改修が必要な物件については、登録を遠慮させていただいている。

【質疑】佐藤

人口減少により高齢社会の中では地域に、あるいは町においてより深い人と人との繋がりが大切になつてくると思う。

月1回いきいきサロンなどがあるが、それは町民の皆さんにとつて1つの楽しみのある場もある。それからシルバー学園の活動とか、他にも私たちが気がつかないところでいろんな活動があると思うが、戸を閉めて看護の人をお願いをしている実態もある。

そういう現状の中を世代を超えて、もつと交流の場を作つて、つるぎ町で生活して幸せだという風な町づくりを考えてはいただけないかと思つているので、その考えを聞かせていただきたい。

【答弁】兼西町長

世代間を越えた交流の場作りについてであるが、

世代間の交流事業については、学校の授業の一環として地域文化に触れる活動や公民館活動、卒業のない学校であるシルバー学園において、交流活動を実施しており、子どもたちが地域文化を誇りに思い継承できるよう努めていきたいと考えている。

また今後は、少子高齢化による人口減少という状況にあり、交流活動が積極的に行えるよう、公共施設のあり方についても最大限検討をしなければならぬと考えている。

さらに、つるぎ町内だけの交流にかかわらず、にし阿波観光圏事業や世界農業遺産登録の機会を活かし、つるぎ町の個性ある農村文化を利用した観光による交流人口の増大をめざし、つるぎ町に暮らす人たちの新たな産業と生きがいを創出したいとも考えている。

しかし、先程申し上げたように、当然私の任期は4年という中で、4月9日まで、それ以外について今ここで語ることは出来ない。だから、もし再度担当者としていただけるならば、やはり議会と密な協議連携を図りながら活性化に向けた取り組みの場を設けたいとも考えている。



※答弁者の職・氏名は、平成29年3月現在のものです。

委員会での審議

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会では、主に教育、福祉、保険及び病院等に関する議案を審査します。

3月1日開催

委員長

森長 秀行

副委員長

小野 誠治

委員

小坂 重夫

西谷 一廣

佐藤千代美

議案第6号

つるぎ町職員定数条例の一部を改正する条例

【質疑(小野)

■地域枠医師の確保という説明であつたが研修期間はどのくらいのスパンで、何名ほど来る予定か

【答弁(沖津事業管理者)

徳島大学卒業の地域枠医師には、地域貢献として卒後9年間の勤務義務期間があり、そのうち3年間は地域の病院(町立半田・県立三好・海部)で勤務をする必要がある。今後当院では、一人でも多くの地域枠医師を受け入れたいと考えている。

【質疑(佐藤)

■職員定数を増やす必要性は

【答弁(沖津事業管理者)

医療の高度化や専門性により、職員の確保が必要である。特に、回復期機能が求められている中でリハビリ関係職員が必要である。

また、看護師を中心に

職員の平均年齢も若く、結婚・出産・育児といった子育て支援に対応するためにも、必要な人員を確保していく必要がある。

議案第15号

つるぎ町子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例

【質疑(小野)

■各自自治体により対象年齢の表現が違い、つるぎ町は高校修了までの説明であつたが、高等専門学校などの場合どのようなになるのか

【答弁(二宮福祉課長)

18歳に達した年度末まで医療費の助成制度が適用される。

【質疑(小坂)

■これまで、はぐくみ医療の対象が15歳までから今回の改正により18歳まで対象となつたが、その差額の見込み額等は

【答弁(二宮福祉課長)

対象者としては215名増える見込みで、予算としては医療費が約510万円、システム改修費が約

94万円、その他、事務費を合わせると620万円から640万円の増額となる見込みである。

議案第16号

つるぎ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例

【質疑(小坂)

■今回の条例改正に伴い「百寿荘」が介護保険施設として新たな指定を必要とするのか、また介護保険からみて、一宇地域における施設の評価は

【答弁(松岡長寿介護課長)

新たな指定は必要としない。一宇地域は地理的条

補正予算(第1号)

件などで民間事業所の参入もなく、在宅介護サービス上の重要な施設となっている。

議案第27号

平成28年度つるぎ町一般会計補正予算(第7号)

質疑(小坂)

■放課後子ども教室推進事業、備品購入費について、予算計上している金額で備品が揃うのか

答弁(植田生涯学習課長)

これまでに事業は進めており、今あるものに補充するものである。

ノートパソコン等は先生が使用する。また備品購入により放課後の学習を充実させることができる。

議案第29号

平成28年度つるぎ町介護サービス事業特別会計

質疑(小坂)

■一時的に要支援認定者のケアプラン委託が増えたということだが、要介護者を含め全ての認定者数は増えているのか

答弁(松岡長寿介護課長)

全ての介護認定者の内、居宅サービス受給者数は、1月末現在、延べ5085人に達しており昨年の同時期と比較して250人の増加となっている。

議案第31号

平成29年度つるぎ町一般会計予算

質疑(小坂)

■美馬西部学校給食センターの負担金の割合は

答弁(小出学校教育課長)

平成29年度美馬西部学校給食センター組合負担金については、つるぎ町と

美馬市で構成する一部事務組合の負担金であり、均等割りと同年度5月1日現在の利用割りで負担割合が決定し、算定した結果、つるぎ町が55・4%・美馬市が44・6%の負担率の予算が計上されている。

質疑(小坂)

■つるぎ町単独の学校給食センターの進捗状況は

答弁(小出学校教育課長)

現在、基本設計を進めている「つるぎ町学校給食センター」については、平成29年度に入り実施設計(地質調査を含む)の入札にとりかかるため、現在準備を進めている。

質疑(小坂)

■放課後子ども教室推進事業費の教育活動推進員と地域ぐるみの学校支援事業の学習活動支援員は、どのような人な

のか

答弁(植田生涯学習課長)

放課後子ども教室の教育活動推進員は文化的な教養を教えていただく方々で、教職員ではなく一般の方々(茶道・華道・舞踊等の講師)に指導していただく。また地域ぐるみの学校支援事業についても、一般の方々(国語・数学・英語等の講師)の他、塾の先生にもお願いしている。

質疑(小坂)

■講師は何人体制か、また子供の参加者数は

答弁(植田生涯学習課長)

中学生を対象とした学習活動の講師数は1クラス2名で貞光中学、半田中学それぞれ6名で毎週土曜日に行っている。

また、子ども教室は定期的ではないが、平均すると週2回程で2人から3人で行っている。

小学生を対象とした放

内容は

答弁(大西保健センター所長)

二次医療圏毎の区域で、

休日夜間の診療時間帯を複数の救急告示医療機関で当番制をとりながら、救急体制の確保を努める事業について、市町村が補助金交付していくものである。

つるぎ町は、美馬市と西部

1ブロックに属し、二次医療救急機関、半田病院と

ホウエツ病院に合わせて

500万円の補助金交付

額を予算計上している。

質疑(小野)

■幼稚園の施設改修工事の内容は

答弁(小出学校教育課長)

貞光幼稚園施設改修工

事の内容については、①門

扉設置工事、②教室ロッ

カー・下駄箱・クロス張り

替え工事、③倉庫雨樋設

置工事、④給食配膳室改

修工事を予定している。

施設の耐震は十分保

ているものの、一部古く

なった部分の改修である。

質疑(小野)

■文化財標柱等の設置場所

答弁(植田生涯学習課長)

半田多聞寺の文化財2

カ所に設置する。

質疑(小坂)

■地域生活支援事業委託料の委託先は

答弁(二宮福祉課長)

障がい者が社会参加の

ため外出する場合に利用

する移動支援事業では「ゆ

うゆう屋」「コスモス」「こ

ぶき」「訪問ステーションこ

まち」等で、地域活動支援

事業としては生産活動の

機会の提供、社会との交流

促進を目的とする地域活

動支援センターとしての

「特定非営利活動法人ハッ

ピースマイル」同じく「特

定非営利活動法人すだち